Education First

EF EPI

EF 英語能力指数

世界111か国・地域の英語能力ランキング

www.ef.com/epi

EF SET
EF 標準英語テスト
www.efset.org/ja

2022

EF EPI に参加するには？
efset.orgよりEF SETを
無料受験いただけます

目次

04 エグゼクティブ・サマリー
06 EF EPI 2022 国/地域別ランキング
08 EF EPI 2022 都市別スコア
10 EF EPI 2022 詳細データ
12 英語と経済
13 英語とイノベーション
14 職場における英語
16 英語と社会
17 英語と未来
18 ヨーロッパ
20 アジア
22 中南米
24 アフリカ
26 中東
28 結論
30 提言
32 付録A：この指数について
34 付録B：EF EPI 能力レベル
35 付録C：CEFR レベルとCan-Do自己評価
36 付録D：EF EPI 各国・地域スコア

エグゼクティブ・サマリー

この2年半のパンデミックという未曾有の事態の中で、我々は「つながり」の重要性を学びました。家族や友人と過ごす時間や、同僚や隣人との他愛のない会話を通じて絆を深めるだけでなく、さまざまなニュースを通じて目まぐるしく動く世界の一部であることも意識するようになりました。

英語は国境を越えて人と繋がるあらゆるシーンで潤滑油の役割を果たします。国際的なプロジェクトへの参画、海外メディアの理解、海外への旅行、新たな研究の取り組み、グローバルコミュニティへの参加など、英語能力が向上することでこれまでにない可能性が開かれるようになります。

しかし英語との付き合い方に悩み、英語学習にフラストレーションを感じている人も多いのではないでしょうか。大学受験へ向けて勉学に励む学生から、外国人観光客に初めて食事を提供するウェイター、洋楽のヒット曲の歌詞を理解したい若者、海外のサプライヤーと初めて契約する経営者まで、立場によって英語のニーズや課題はさまざまです。組織や政府は英語教育に多額の投資を行っており、英語習得に努力する個人もますます増えています。英語は国際的なつながりを促進し、これからの時代を生き抜くために不可欠なツールとなっています。

本レポートでは、世界の各地域で英語能力がどのように向上しているか調査し、その結果をまとめました。本年度のEF EPIは、2021年にEF英語標準テスト(EFSET)または弊社の英語実力テストを受けた210万人を超える受験者のテストデータを基にしています。

女性の英語能力は新卒時点では男性より低いが、後にその差が縮小
過去10年間、男性の英語能力が着実に向上する一方で、女性の英語能力は横ばいで推移してきました。そして昨年度では初めて世界平均で男性の英語能力が女性を上回りました。今年に入ってからは、男性の英語能力がさらに向上している一方で、女性の英語能力が若干低下しており、ますますその差が開きつつあります。現在では、世界の調査対象国や地域の3分の2で男性の英語能力が女性を上回っていますが、地域や国によってはその差はわずかなものととなっています。

この傾向は、教育制度における偏りや教育への不平等なアクセスが原因であると考えられます。男女の英語能力の差は18〜20歳のグループで最も顕著となっており、26歳以下ではわずかに差が狭まっています。また、職場や30歳以上の社会人グループにおいては、特に男女差は見られません。

高年層は改善傾向、若年層は伸び悩む
年齢別データの収集を開始した2015年以降、25歳以上のすべての年齢層で英語能力が大きく向上しており、40歳以上の成人では最も向上が見られました。これは2015年に24歳だった人が30歳以上となり、比較的英語能力の高い層が中高年層へと機械的にシフトしたためだと考えられます。しかし、これらのグループは、比較的高い英語能力を保持している中高年グループの半分以下となっており、職場での研修や学習意欲の向上、社会人向けの教育プログラムなどにより、英語に触れる機会が増えたことが残りのグループの能力向上に寄与していると考えられます。これは、学習者自身にとっても成人教育に投資する組織にとっても朗報だと言えるでしょう。

一方で、楽観視できない点もあります。21〜25歳の英語能力は2015年以降横ばいとなっており、最も若い年齢層では英語能力が低下しています。特に新型コロナウイルスの流行以降、これらのグループの能力の低下は顕著となっており、2年間で50ポイント近く（英語能力の1レベル分に相当）低下しています。こうしたことから、語学力の向上には、少なくとも指導時間に相当する練習量が必要なことがうかがえます。

リモート授業をはじめ、ソーシャルディスタンスやマスク着用の徹底によるコミュニケーションの難しさ、旅行機会の不足などがこのグループでは特に大きな影響を与えており、再び普段の生活を送れるようになる際に英語能力がどの程度回復するかは未知数となっています。

英語は経済競争率を高める
英語は国境を越える情報交換の際に圧倒的に使用頻度が高い言語であり、情報や専門知識へのアクセスに重要な要素となっています。本レポートの作成にあたり英語とイノベーションや競争力における様々な取り組みの間には一貫した強い相関性があることが分かりました。この分析結果は管理職の出身国が多岐に渡る会社の方が多様性に劣る他社よりもイノベーションの分野でより多くの収益を上げているという研究結果とも一致します。英語を話す組織は、より多様な人財を確保することができ、世界中からアイデアを取得することができます。また、組織内や取引企業間で国際的な共同開発を行う機会も多くなります。

大都市が必ずしも英語能力が高いとは限らない
首都や大都市の多くは、全国平均よりも高い平均英語能力を有していますが、各国で最も英語能力の高い都市が首都であることは比較的まれであり、そうした都市が周辺地域から高い英語能力を持つ人々を引き寄せているわけではないことが見て取れます。今回の指数に含まれる500都市のうち、130都市は地域平均を下回り、さらに他の130都市はわずかに上回っているに過ぎませんでした。多くの企業が、リモートワークやハイブリッドワークへの移行を検討し、合理的なコストで人財を確保できる地域を模索している中、こうした知見は見逃せません。

英語能力の高い国はより公平で解放的
世界と繋がっている社会であること、平等性と自由、英語能力には明確な関係性が見られ、それぞれの要因が向上するほど、他の要因も向上するという好循環が生まれています。経済、科学、外交などの観点から世界と深く関わる地域では英語を必要とし、英語が優先される傾向にあります。こうした世界との関わりを通じ、成人グループが英語に触れる機会が増えることで、英語能力の向上が期待できます。しかし、経済的格差が大きい国では、教育面や職業面で同様の機会を得ることが難しく、平均的な英語能力を向上させるうえでの障壁となっています。

アジアでの英語能力レベル停滞か
アジアの地域平均は、中国とフィリピンのスコア低下の影響を受けて若干低下しましたが、南アジアとASEANの平均スコアは昨年とほぼ同程度となっていました。中央アジアでは2018年から急速に改善が進んでいましたが、今年に入り状況は頭打ちとなっています。一方でキルギスは好調に推移しています。

中南米の社会人は英語学習に意欲的、学生は停滞気味
中南米は、過去10年間の英語習得において著しい進歩を遂げています。中南米の大半の国が、世界最速のペースで英語能力を向上させており、指数対象となって以来、1つ以上の英語能力のレベルアップを達成しています。しかしこの地域は年齢によるスコア差が世界で最も大きく、特に2020年以降は新型コロナウイルスの影響による学校閉鎖の長期化などの影響により、若年層のスコア低下が顕著となっています。

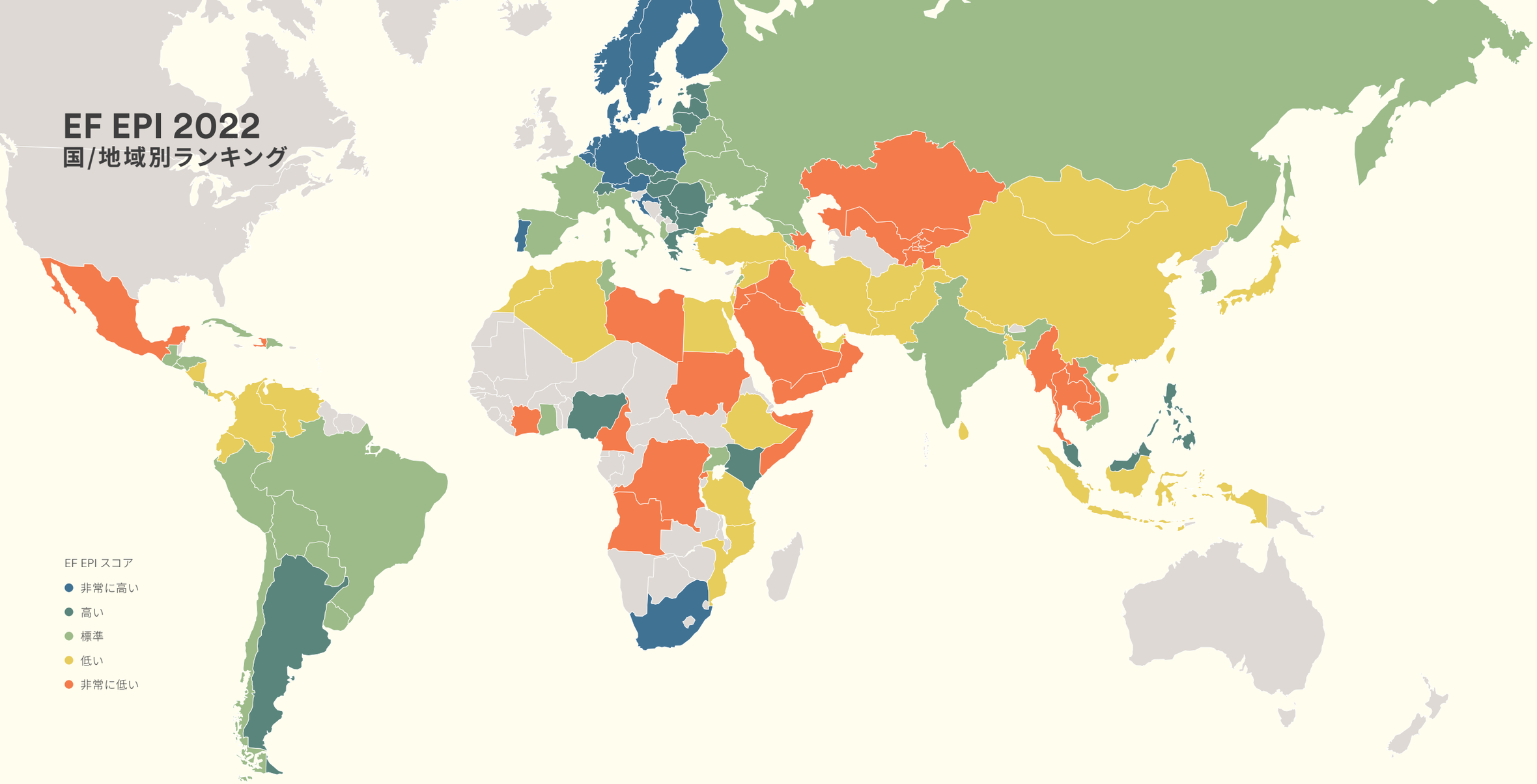
アフリカでは格差が顕著に現れる
アフリカ諸国は地域全体としては安定したスコアを維持していますが、男女間や年齢層別での英語能力のスコアの差が、世界的に最も大きいエリアも見られました。男女間においては、女性の英語能力が高い国と、男性の英語能力が高い国があり、それらが同程度の割合で存在していることから、地域平均として見た場合には、大きな差は見受けられませんでした。同様に、若年層（18〜20歳）の英語能力が高い国もあれば、若手の社会人層（25〜39歳）の英語能力が高い国もあり、このような年齢層間のギャップから、アフリカ諸国の急速な変化が見て取れます。教育機関での英語教育が効果的であれば、その効果はまず若い世代に現れ、職場の国際化が進めば、社会人の英語能力の向上はより急速に進んでいくことが予想されます。

ヨーロッパでは英語能力の低い層が改善
ヨーロッパの英語能力はどの地域よりも高く、2011年以降一貫して向上しています。40歳以上の英語能力はヨーロッパの他の年齢層よりもはるかに速いペースで向上しており、他の地域と異なり若年層のスコアも好調に推移しています。近年、EU圏内の伸びは鈍化しているものの、かつては英語能力が低いとされていたEUに隣接する諸国でのスコア向上が見られ、地域平均の上昇に最も寄与する結果となりました。しかし、EU内でも、フランス、スペイン、イタリアの3大経済大国は、依然として近隣諸国に遅れをとっており、改善の余地があります。

中東での進展はわずか
中東は教育レベルの向上に向け積極的な投資を行っていることで知られていますが、同地域の英語レベルは過去10年間であまり変化が見られず、年齢層によるスコアのばらつきが最も少ないことからも、教育機関や職場が人々の英語能力向上にそれほど貢献していないことがうかがえます。一方で、「性別による英語能力の差がやや縮小している」という明るいニュースもあります。

言語は人を繋ぐツールです。言語は我々がアイデアを共有し、知識を蓄え、文化を形成するための潤滑油です。そしてその言語を話す人口が多いほど、その言語を学ぶために、まるで磁石のようにさらに多くの人を引き付ける性質があります。世界の人々が平等に英語を学ぶ機会さえあれば、英語は近い将来、多様性やインクルージョン（D&I)を実現させる原動力となる可能性を秘めています。

EF EPI 2022
国/地域別ランキング



非常に高い英語能力

01	オランダ	661
02	シンガポール	642
03	オーストリア	628
04	ノルウェー	627
05	デンマーク	625
06	ベルギー	620
07	スウェーデン	618
08	フィンランド	615
09	ポルトガル	614
10	ドイツ	613
11	クロアチア	612
12	南アフリカ	609
13	ポーランド	600

高い英語能力

14	ギリシャ	598
15	スロバキア	597
16	ルクセンブルク	596
17	ルーマニア	595
18	ハンガリー	590
19	リトアニア	589
20	ケニア	582
21	ブルガリア	581
22	フィリピン	578
23	チェコ共和国	575
24	マレーシア	574
25	ラトビア	571
26	エストニア	570
27	セルビア	567
28	ナイジェリア	564
29	スイス	563
30	アルゼンチン	562
31	香港特別行政区	561

標準的な英語能力

32	イタリア	548
33	スペイン	545
34	フランス	541
35	ウクライナ	539
36	韓国	537
37	コスタリカ	536
38	キューバ	535
39	ベラルーシ	533
40	ロシア	530
41	ガーナ	529
42	モルドバ	528
43	パラグアイ	526
44	ボリビア	525
45	チリ	524
45	ジョージア	524
47	アルバニア	523
48	ホンジュラス	522
49	ウルグアイ	521
50	エルサルバドル	519
51	ペルー	517
52	インド	516
53	ドミニカ共和国	514
54	レバノン	513
55	ウガンダ	512
56	チュニジア	511
57	アルメニア	506
58	ブラジル	505
58	グアテマラ	505
60	ベトナム	502

低い英語能力

61	ニカラグア	499
62	中華人民共和国	498
63	タンザニア	496
64	トルコ	495
65	ネパール	494
66	バングラデシュ	493
67	ベネズエラ	492
68	エチオピア	490
69	イラン	489
70	パキスタン	488
71	スリランカ	487
72	モンゴル	485
73	カタール	484
74	イスラエル	483
75	パナマ	482
76	モロッコ	478
77	コロンビア	477
78	アルジェリア	476
78	アラブ首長国連邦	476
80	日本	475
81	インドネシア	469
82	エクアドル	466
83	シリア	461
84	クウェート	459
85	エジプト	454
86	モザンビーク	453
87	アフガニスタン	450

非常に低い英語能力

88	メキシコ	447
89	ウズベキスタン	446
90	ヨルダン	443
91	キルギス共和国	442
92	アゼルバイジャン	440
93	ミャンマー	437
94	カンボジア	434
95	スーダーン	426
96	カメルーン	425
97	タイ	423
98	ハイチ	421
99	カザフスタン	420
100	ソマリア	414
101	オマーン	412
102	サウジアラビア	406
103	イラク	404
104	コートジボワール	403
105	アンゴラ	402
106	タジキスタン	397
107	ルワンダ	392
108	リビア	390
109	イエメン	370
110	コンゴ民主共和国	367
111	ラオス	364

EF EPI 2022
都市別スコア

非常に高い英語能力

アムステルダム	673
コペンハーゲン	664
ストックホルム	637
ザグレブ	637
オスロ	635
ヘルシンキ	635
ウィーン	632
リスボン	622
チューリッヒ	622
ブリュッセル	620
ワルシャワ	614
ブカレスト	609
ブラチスラヴァ	607
ヨハネスブルク	604
ブダペスト	604
プラハ	600

高い英語能力

ソフィア	598
ベルリン	592
アテネ	587
ナイロビ	585
パリ	585
ソウル	580
クアラルンプール	579
ブエノスアイレス	578
マドリード	572
マニラ	567
ベオグラード	566
ローマ	566
香港	561
ラゴス	559
サン・ホゼ	558
サンティアゴ	550
モスクワ	550

標準的な英語能力

北京	549
上海	549
ムンバイ	546
ハノイ	545
サンクト・ペテルブルク	542
ミンスク	541
キーウ	541
リマ	539
アスンシオン	538
リオデジャネイロ	536
ハバナ	536
ティラナ	535
トビリシ	533
テグシガルパ	532
サンパウロ	532
モンテビデオ	530
サンサルバドル	529
チュニス	528
アクラ	527
サント・ドミンゴ	523
ジャカルタ	523
デリー	523
東京	522
グアテマラシティ	517
アディスアベバ	514
ラパス	514
エレバン	512
ダッカ	512
ベイルート	509
カラカス	509
ドバイ	508
コロンボ	507
ホーチミンシティ	507
カトマンズ	507
メキシコシティ	507
アンカラ	506
ダル・エス・サラーム	506
パナマシティ	504
ボゴタ	503
マナグア	502

低い英語能力

カラチ	499
イスタンブール	499
キト	495
ウランバートル	492
テヘラン	490
アルジェ	486
カサブランカ	484
カンパラ	484
バンコク	483
ドーハ	474
テルアビブ	472
カイロ	471
ダマスカス	469
バクー	469
アンマン	460
ヤンゴン	460
ビシュケク	459
マプト	458
カブール	455
ヌルスルタン	455
プノンペン	453

非常に低い英語能力

タシュケント	445
クウェートシティ	443
トリポリ	428
リヤド	423
ポルトー・プランス	422
ハルツーム	421
マスカット	420
バグダッド	418
ドゥシャンベ	415
ドゥアラ	412
サナア	397
キガリ	389
モガディシュ	385
アビジャン	374
キンシャサ	370

1,200を超える国と地域の英語能力スコア、および国別、地域別の性別、年齢、業種のデータの詳細はこちら：
www.ef.com/epi

EF EPI に参加するには？
efset.orgよりEF SETを無料受験ください

EF EPI 詳細データ

受験者の内訳

210万人
合計受験者数

55%
女性

45%
男性

97%
60 歳未満

25歳
年齢の中央値

111
国と地域

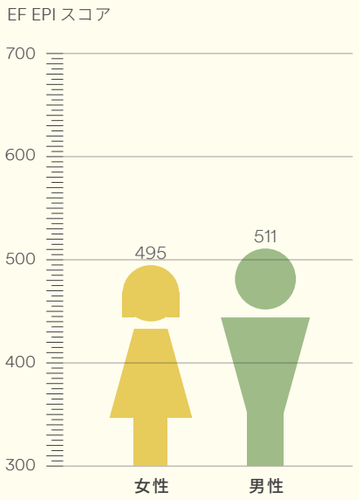
中東 12
アフリカ 20
中南米 20
ヨーロッパ 35
アジア 24

EF EPI 2022 地域別トレンド

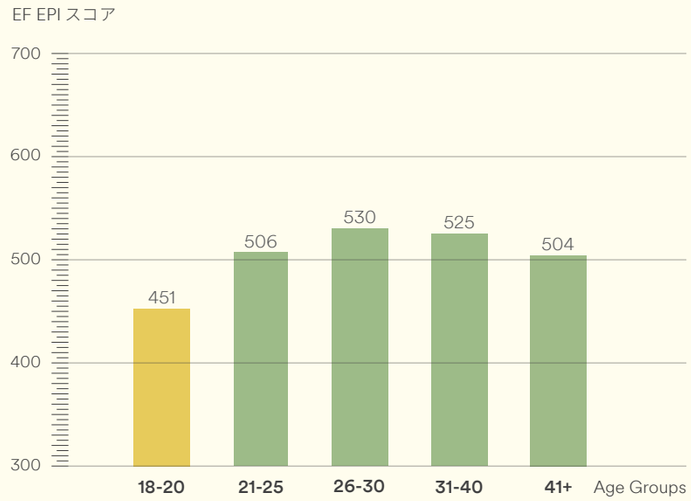
	ヨーロッパ	アジア	アフリカ	中南米	中東
最高スコア	オランダ **661**	シンガポール **642**	南アフリカ **609**	アルゼンチン **562**	レバノン **513**
最低スコア	アゼルバイジャン **440**	ラオス **364**	コンゴ民主共和国 **367**	ハイチ **421**	イエメン **370**
能力レベル上昇（国、地域）	**2**	**3**	**0**	**3**	**1**
能力レベル降下（国、地域）	**3**	**1**	**0**	**0**	**1**

性別および年齢が英語能力に及ぼす影響

世界全体の男女差



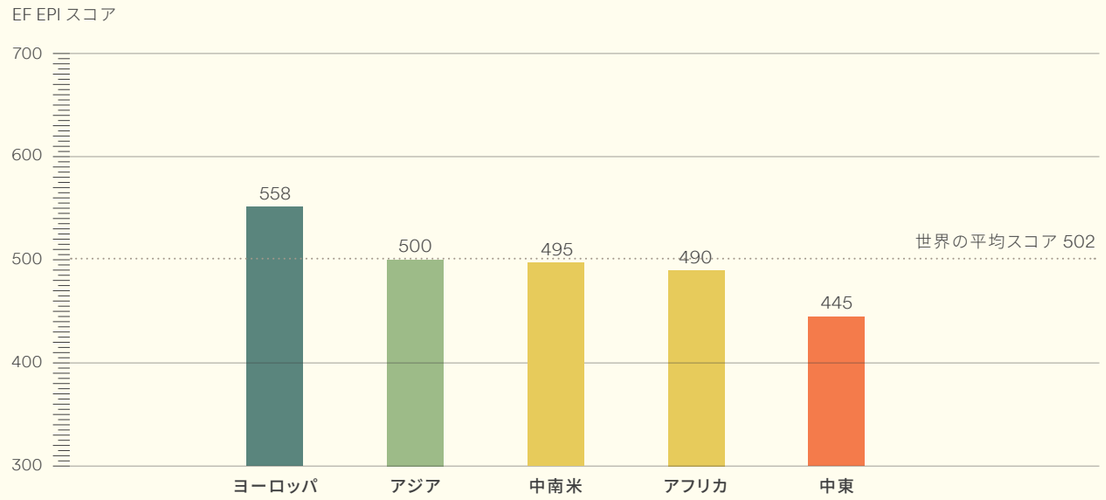
世界全体の世代間差



EF EPI スコア　非常に高い　高い　標準　低い　非常に低い

EF EPI 2022 地域別スコア

EF EPI 地域別平均



EF EPI スコア　非常に高い　高い　標準　低い　非常に低い

EF EPI に参加するには？
efset.orgよりEF SETを無料受験ください

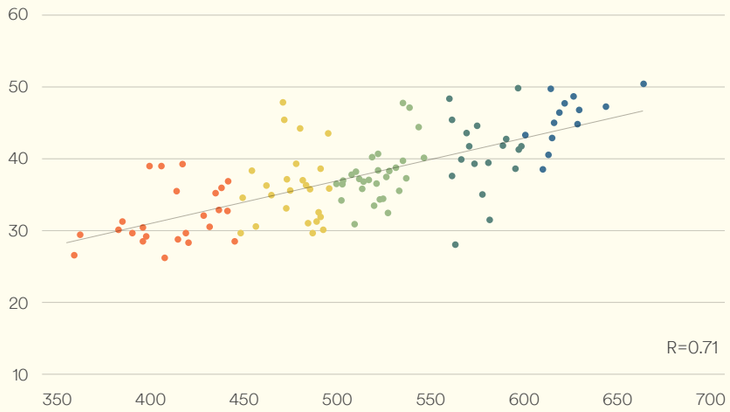
英語と経済

英語力の向上は、国際貿易におけるコミュニケーションを円滑にするだけでなく、グローバル化した世界において、より多くの貿易の機会をもたらします。個人の経済力や国際交流機会と英語力の間には一定数の相関関係がありますが、経済バランス、生産性、潜在能力などの複雑な指標と英語力との相関関係はそれ以上に強く存在します。
英語は、現代のビジネスに必要な他のスキルと同様に、それ自体が貿易の拡大や賃金の上昇に繋がるわけではありませんが、英語力が経済発展や労働力の効率化と密接に関係していることは明らかです。

グラフ A

英語と生産性

生産能力指数



EF EPI スコア

引用元：国際貿易開発会議（2020年）

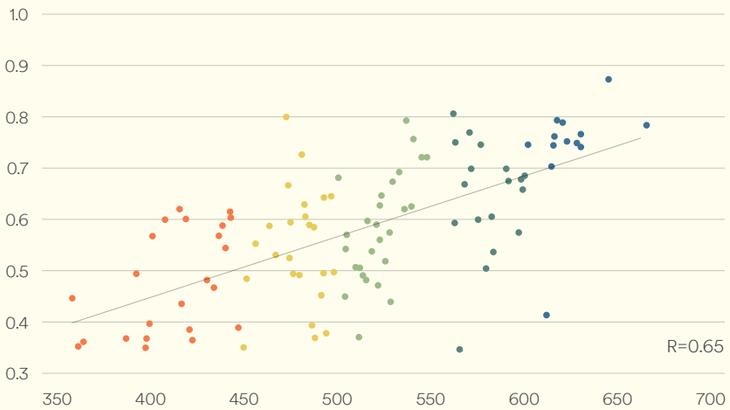
EF EPI スコア

- 非常に高い
- 高い
- 標準
- 低い
- 非常に低い

グラフ B

英語と人的資本

人的資本指数



EF EPI スコア

引用元：世界銀行（2020年）

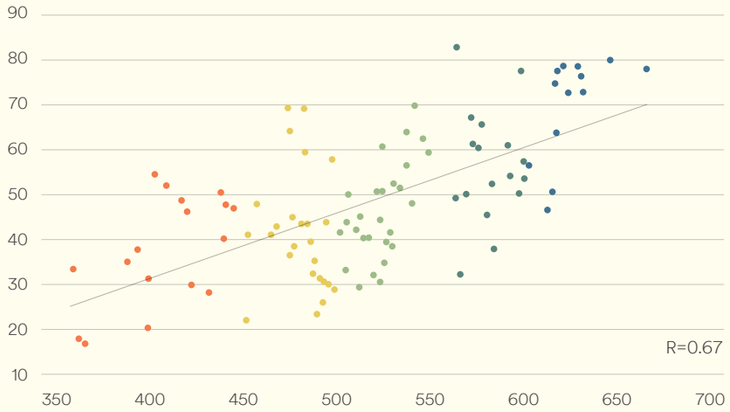
英語とイノベーション

イノベーションは、アイデアや情報を広く交わし、そこから生まれる新たな疑問への答えを導き出し、対処法を練ることによって加速していきます。
現代社会においてテクノロジーはコミュニケーションに不可欠なものとなっており、世界共通語である英語も重要な役割を担っています。
現在、英語を話す人は20億人を超えており、多くの研究発表が英語で行われ、世界中の研究機関やオフィス、大学では、書面や口頭でのコミュニケーションツールとして英語が活用されています。

グラフ C

英語と人財競争力

世界人財競争力指数



EF EPI スコア

引用元：Lanvin & Monteiro（2021年）

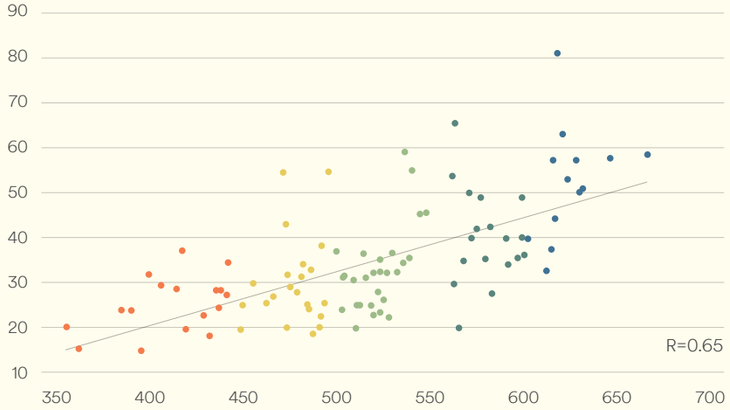
EF EPI スコア

- 非常に高い
- 高い
- 標準
- 低い
- 非常に低い

グラフ D

英語とグローバルイノベーション

グローバルイノベーション指数



EF EPI スコア

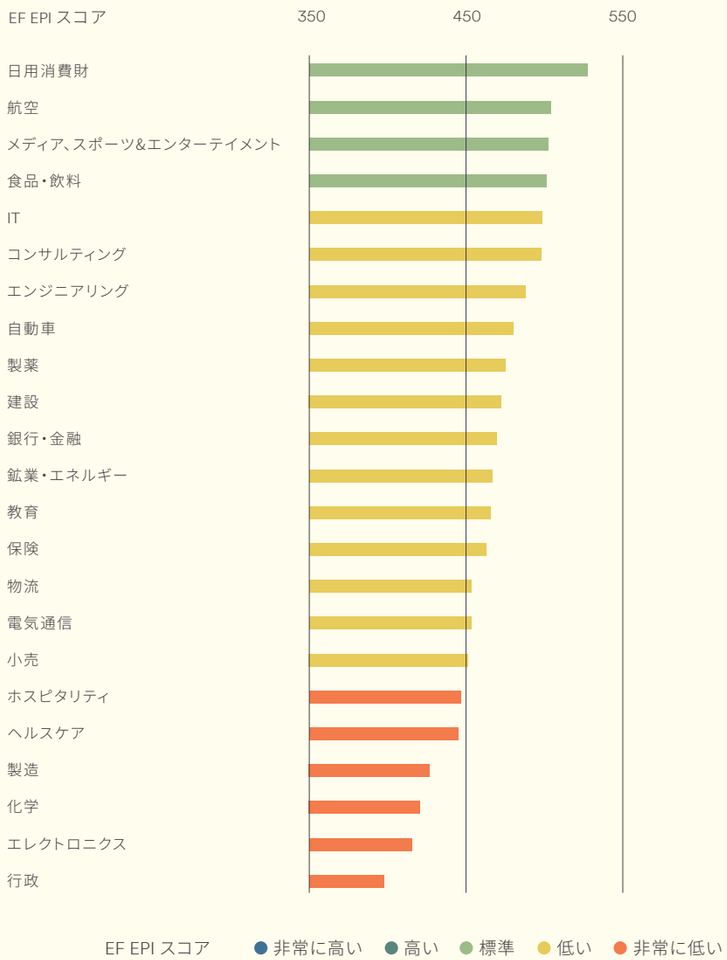
引用元：世界知的所有権機関（2021年）

EF EPI に参加するには？
efset.orgよりEF SETを無料受験ください

職場における英語

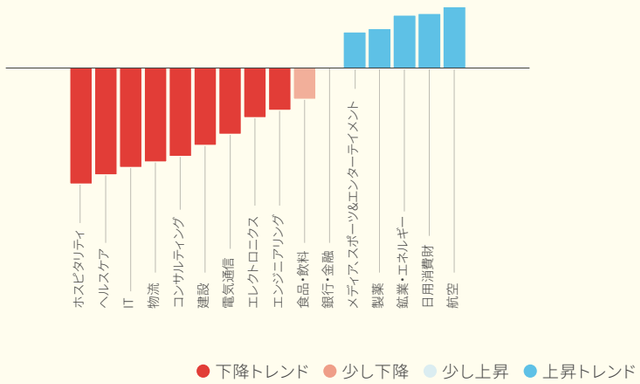
過去10年間のデータから成人の英語能力向上における職場の重要性がますます高まっていることが見て取れます。英語を使う必要のある仕事に就くことで、プロフェッショナルの学習に対するモチベーションが高まり、社員が切磋琢磨し合うことで先進的な企業の育成が促されるようになります。また、ある程度の英語力がある人でも、職場で英語に触れることで日々の練習になり、学校の英語の授業ではカバーしきれないリアルで実践的な英語を身につけられるようになります。
こうした好循環が、30歳以上の成人の平均英語力の向上や上級管理職の英語力の平準化に繋がることが期待されますが、一方で労働市場で遅れをとっている職場や海外とのやり取りが求められない職場とのギャップが深まる可能性もあります。

業種別 EF EPI



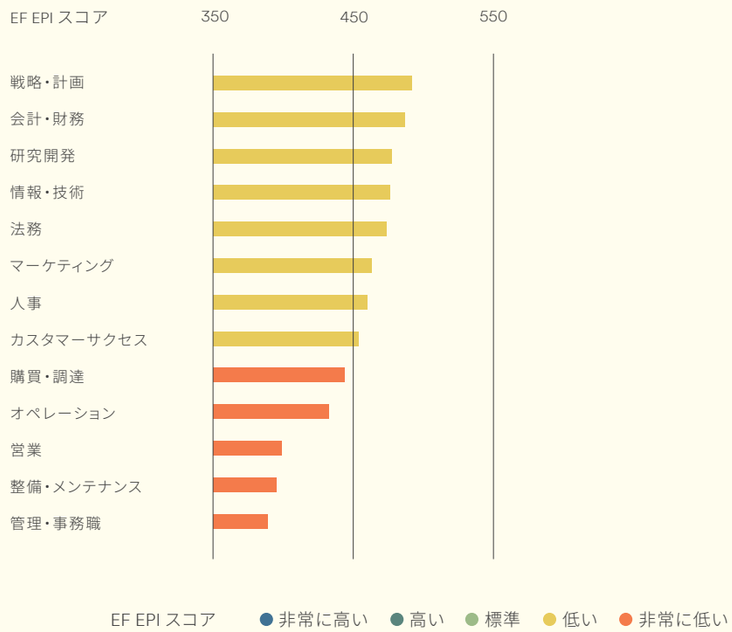
受験者の約4分の1が解答した「自身の仕事に関する情報」によると、多くの方が国際的なビジネス環境で効果的にコラボレーションを行うには自分の英語能力が不十分であると感じていることがわかりました。こうしたことからも、ビジネスで英語を用いたコミュニケーションを行うには、中級以上の英語能力が不可欠であることがわかります。多くの業界で過去10年間で英語能力のスコアが低下傾向にありますが、これは主に弊社の受験データ取得の拡大によるもので、より正確に近い数値を表示しています。

EF EPI（2012年 ～ 2022年）業種別トレンド



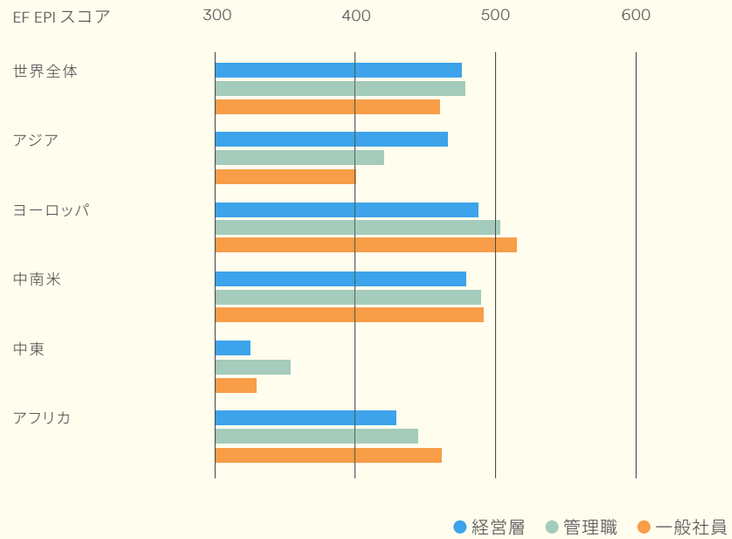
現代のビジネスは国境を越えたチームが急速に増え階級制が薄れていくなか、俊敏性やイノベーションを重要視する動きが高まっています。人財が新しい職務に就くために必要な英語スキルを持ち合わせていない時、キャリアアップの道は制限され、また雇用側にとって、これは非効率な構造を生み出す原因となります。ビジネスニーズがかつてないほど急速に変化するなかで、新しいスキルを身に付け、既存のスキルを向上させる企業の俊敏性が競争力のカギとなります。英語はキャリアアップの障壁ではなく、むしろインクルージョンを促進させる原動力であるべきでしょう。

職務別 EF EPI



職場の平均的な英語能力は過去10年間横ばいとなっている一方、職位別の英語能力の差は大きく縮まっています。英語はもはやエリートや若手社員だけの特権ではなく、採用や昇進にあたっての「必須のスキル」とされるようになっています。ただし、アジアや中東はこのような状況に当てはまらず、職位別の英語能力の差がより顕著となっています。

職位別 EF EPI



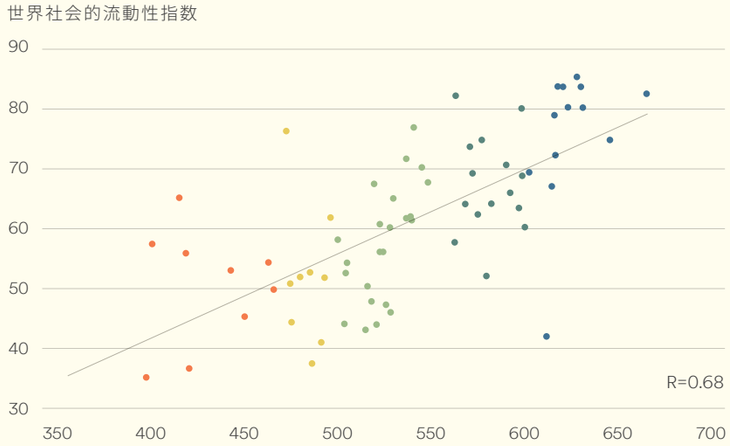
EF EPI に参加するには？
efset.orgよりEF SETを無料受験ください

英語と社会

教育機関で身につけられる様々なスキルと同様、英語能力はソーシャル・モビリティ（社会的流動性）を促します。しかし、教育は社会がすべての人に教育を受けられるようになって初めてその効果を真に発揮します。質の高い教育を公平に提供することが不平等の是正につながることは、多くのデータからも明らかです。男女間、人種間、社会階層間などの不平等が顕在化している国では、その根本的な原因を解決しない限り、英語能力の平均レベルを上げることは困難であると考えられます。

グラフ E

英語とソーシャル・モビリティ（社会的流動性）



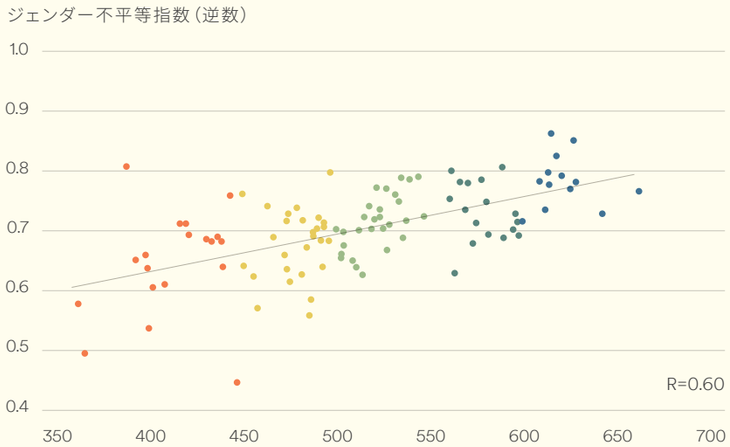
引用元：世界経済フォーラム（2020年）

EF EPI スコア

- 非常に高い
- 高い
- 標準
- 低い
- 非常に低い

グラフ F

英語と男女平等



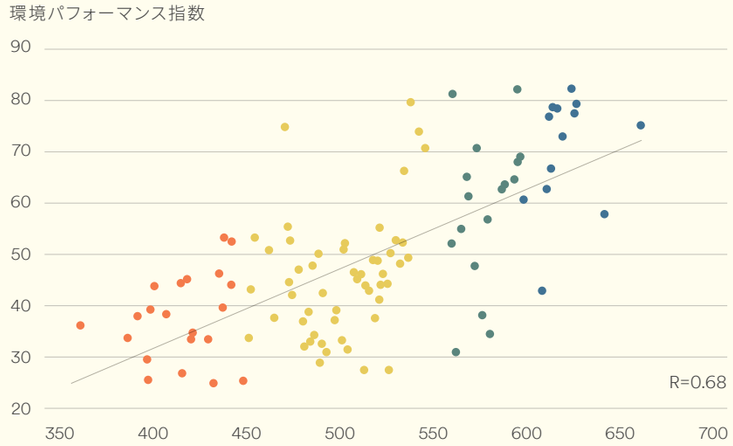
引用元：国連開発計画（2021年）

英語と未来

他国の言語を学ぶことで、新たな知見や知識を得られるようになり、異文化への理解も深まります。特に英語はある意味、人類が暗号化した情報の源とも言えるでしょう。英語能力の向上によって、最新の科学やテクノロジーに対する理解が深まるだけでなく、より良い環境創りの実現に向けた国際議論会に参加したり、歴史や時事問題をより的確に読み解いたりすることも可能になり、さまざまな可能性が広がります。また、こうした体験を通じて平和で住みやすい未来に向けた新たな行動を起こすことも可能となります。

グラフ G

英語と環境



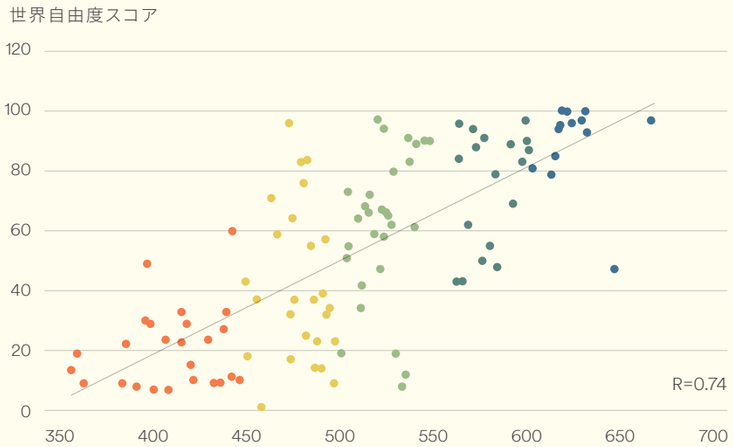
引用元：イェール大学（2020年）

EF EPI スコア

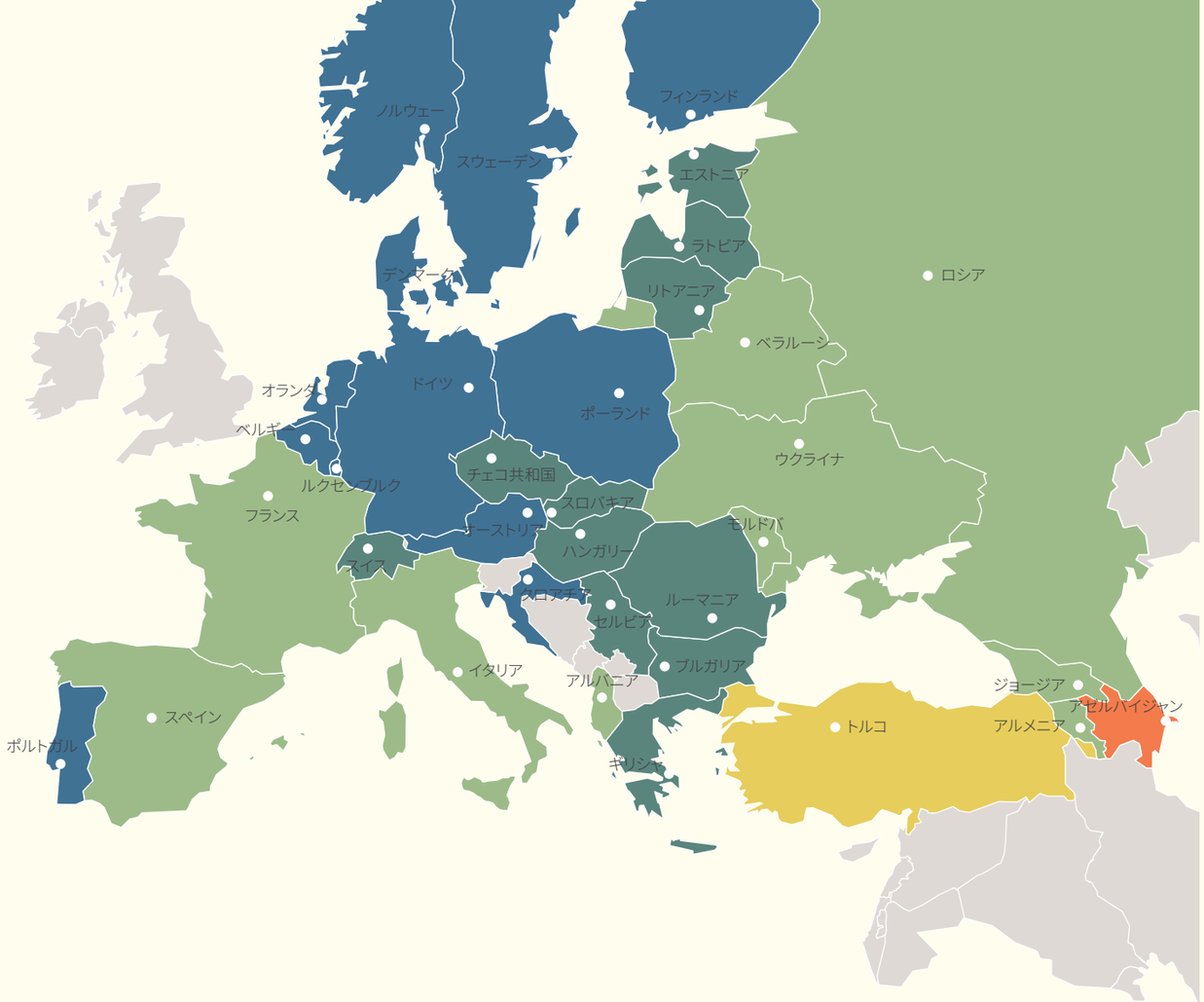
- 非常に高い
- 高い
- 標準
- 低い
- 非常に低い

グラフ H

英語と自由



引用元：Freedom House（2022年）



ヨーロッパ

EF EPI ランキング

01	オランダ	661
03	オーストリア	628
04	ノルウェー	627
05	デンマーク	625
06	ベルギー	620
07	スウェーデン	618
08	フィンランド	615
09	ポルトガル	614
10	ドイツ	613
11	クロアチア	612
13	ポーランド	600
14	ギリシャ	598
15	スロバキア	597
16	ルクセンブルク	596
17	ルーマニア	595
18	ハンガリー	590
19	リトアニア	589
21	ブルガリア	581
23	チェコ共和国	575
25	ラトビア	571
26	エストニア	570
27	セルビア	567
29	スイス	563
32	イタリア	548
33	スペイン	545
34	フランス	541
35	ウクライナ	539
39	ベラルーシ	533
40	ロシア	530
42	モルドバ	528
45	ジョージア	524
47	アルバニア	523
57	アルメニア	506
64	トルコ	495
92	アゼルバイジャン	440

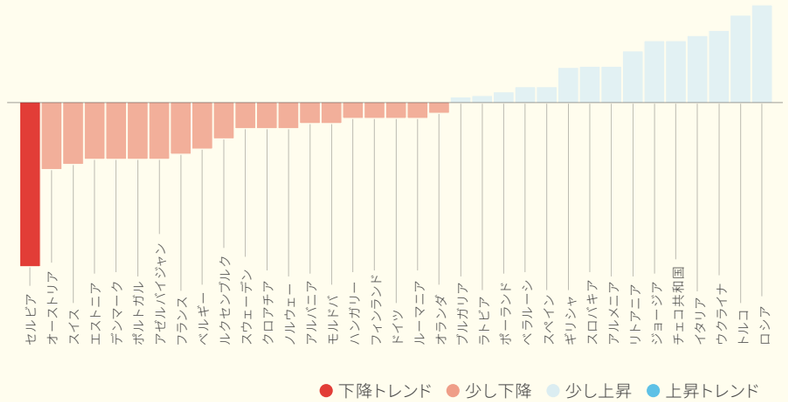
EF EPI スコア　● 非常に高い　● 高い　● 標準　● 低い　● 非常に低い

EF EPI に参加するには？
efset.orgよりEF SETを無料受験ください

EF EPI トレンド

年平均6ポイントと継続的に上昇を続けているヨーロッパは、比較的高い水準でスタートしたにも関わらず、2011年以降グローバルで最もスコアが向上した地域となりました。今年のスコア上昇には、イタリア、ロシア、トルコ、ウクライナなど、英語能力が低～中程度とされる大国でのスコア向上が大きく影響しており、EU圏内での向上スピードは比較的緩やかな結果となりました。
注：地域平均は人口で加重平均しています。

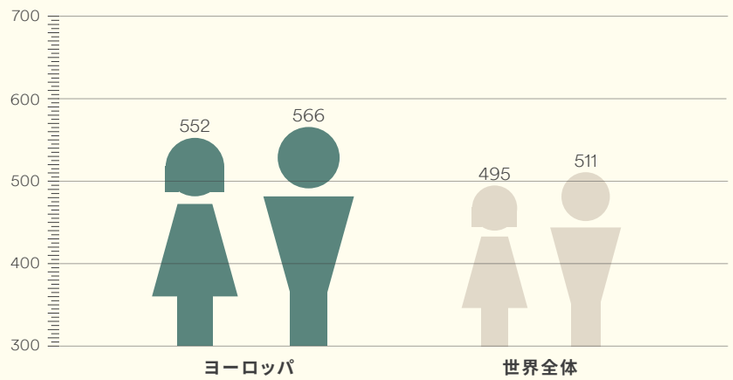
昨年からのEF EPIスコア変化



男女の差

ヨーロッパでは今年、男女の英語能力の広がりに差を見せたものの、両グループの英語能力が向上する結果となりました。12か国のスコアのばらつきが目立ち、上位と下位の国との差は20ポイントにも及びます。
また6カ国を除くすべての国で男性のスコアが女性を上回った結果となりました。一方フランス、イタリア、ロシア、ウクライナなどの男女のスコアは僅差となっています。

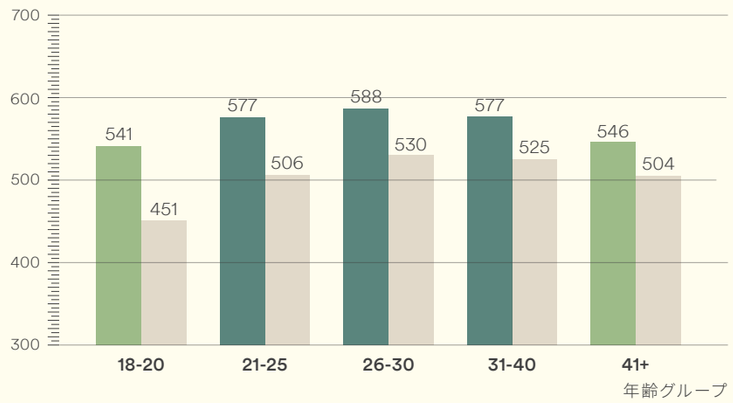
EF EPI スコア



世代間の差

ヨーロッパでは、「英語は学生のうちに学ぶもの」という通説に反し、成人グループがこの地域の英語能力向上に大きく影響しています。2015年以降、ヨーロッパの新卒者のスコアは安定しており、他の年齢層でも大きな伸展が見られ、特に40歳以上の成人グループでは100ポイント近くスコアが上昇しています。

EF EPI スコア



アジア

EF EPI ランキング

2	シンガポール	642
22	フィリピン	578
24	マレーシア	574
31	香港特別行政区	561
36	韓国	537
52	インド	516
60	ベトナム	502
62	中華人民共和国	498
65	ネパール	494
66	バングラデシュ	493
70	パキスタン	488
71	スリランカ	487
72	モンゴル	485
80	日本	475
81	インドネシア	469
87	アフガニスタン	450
89	ウズベキスタン	446
91	キルギス共和国	442
93	ミャンマー	437
94	カンボジア	434
97	タイ	423
99	カザフスタン	420
106	タジキスタン	397
111	ラオス	364

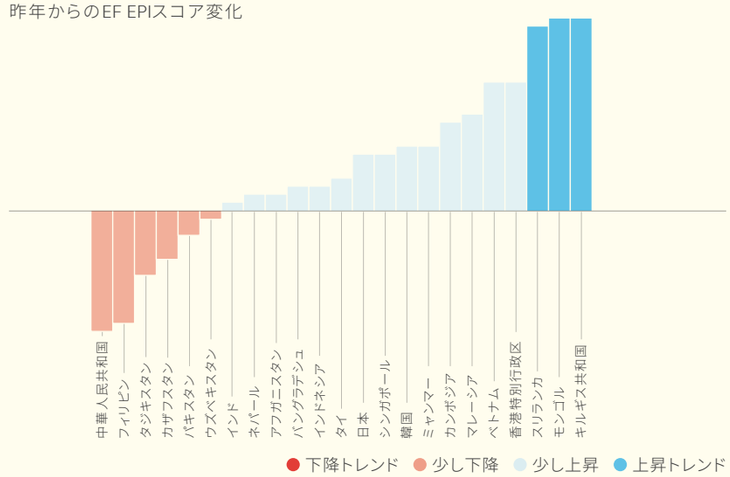
EF EPI スコア　● 非常に高い　● 高い　● 標準　● 低い　● 非常に低い

EF EPI に参加するには？
efset.orgよりEF SETを無料受験ください

EF EPI トレンド

アジアの地域平均は今年わずかに低下しており、中国とフィリピンのスコア低下が地域平均を押し下げる要因となりました。
そうした中でも、3か国のスコアが大幅に上昇し、さらに2か国はより高い英語能力レベルへと移行しています。また、中央アジアの英語能力スコアは、3年連続の上昇の後、横ばいという結果になりました。

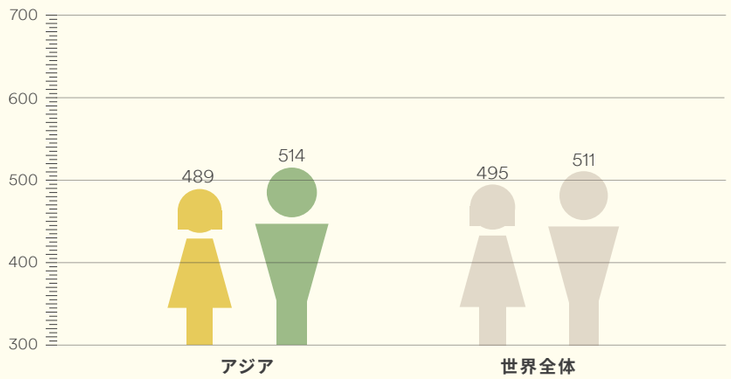
昨年からのEF EPIスコア変化



男女の差

アジアでは今年、中国とインドの影響により、世界で最も大きなジェンダーの差が生じました。
この2カ国はそれぞれ全く逆の動きを見せており、昨年から女性のスコアが男性を上回っている中国では、今年も引き続き女性が優位に立ち、男性に48ポイントの差をつけ、世界最大の差となりました。
一方、インドでは男性が優勢となり、女性を29ポイント上回る結果となっています。

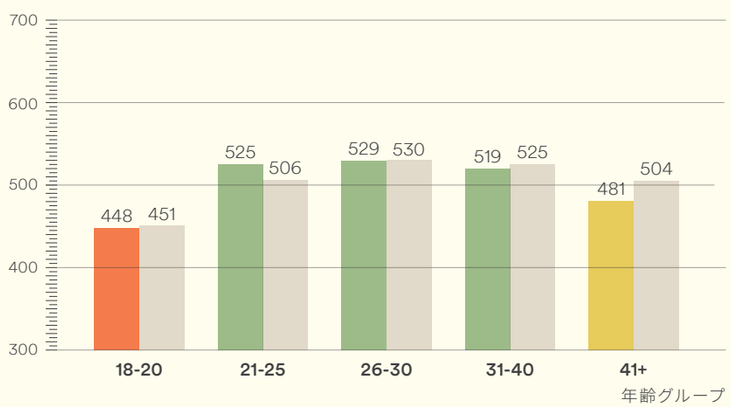
EF EPI スコア



世代間の差

アジアでは、年齢グループによる英語能力の差は依然として大きいものの、多くの国でその差は縮小傾向にあります。中国、インドネシア、日本の若年層の英語能力は30代以上に比べて低く、中国での今年のスコア低下は、同国の若年層のスコアが大きく影響しています。

EF EPI スコア



EF EPI に参加するには？
efset.orgよりEF SETを無料受験ください

中南米

EF EPI ランキング

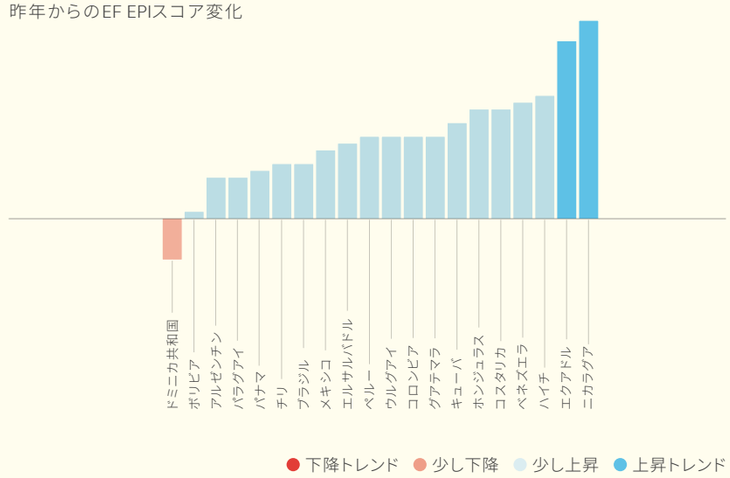
30	アルゼンチン	562
37	コスタリカ	536
38	キューバ	535
43	パラグアイ	526
44	ボリビア	525
45	チリ	524
48	ホンジュラス	522
49	ウルグアイ	521
50	エルサルバドル	519
51	ペルー	517
53	ドミニカ共和国	514
58	ブラジル	505
58	グアテマラ	505
61	ニカラグア	499
67	ベネズエラ	492
75	パナマ	482
77	コロンビア	477
82	エクアドル	466
88	メキシコ	447
98	ハイチ	421

EF EPI スコア　● 非常に高い　● 高い　● 標準　● 低い　● 非常に低い

EF EPI トレンド

中南米は英語能力が続伸し、ほぼすべての国でスコアの上昇が見られました。この10年間の目覚しい進歩により、同地域は能力レベルが「非常に低い」地域から「標準的」な地域へと変貌を遂げました。また、5年間スコアの低下が続いていたメキシコにも若干の回復が見られました。

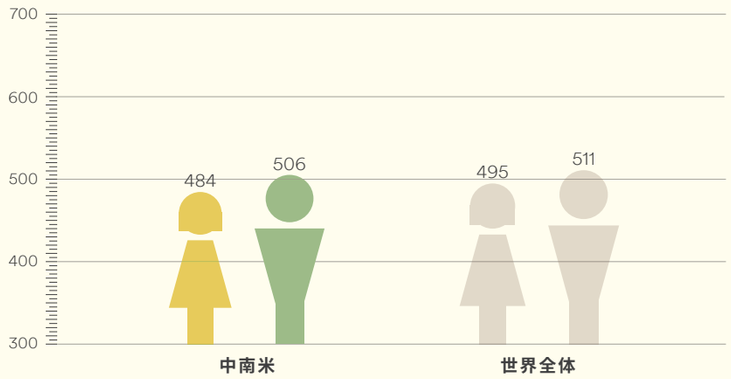
昨年からのEF EPIスコア変化



男女の差

中南米では、今年も男性のスコアが女性を上回りましたが、その差は若干縮まり、両グループともに改善が見られました。この地域に共通する傾向として、大半の国で男性のスコアが女性より10〜25ポイント高くなっていることが挙げられます。一方、ハイチとウルグアイでは、女性のスコアが男性よりもわずかに高い結果となっています。

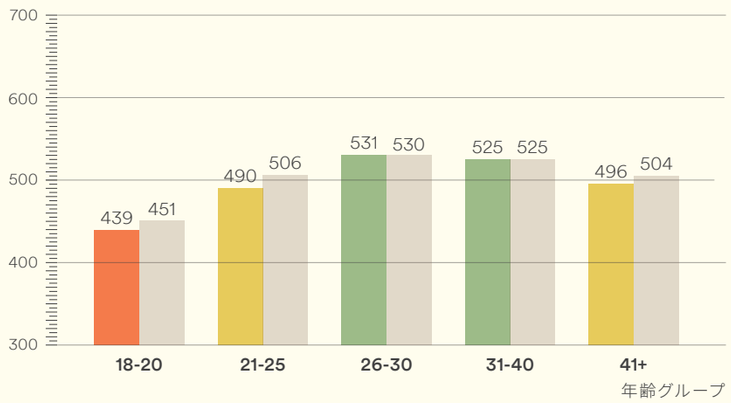
EF EPI スコア



世代間の差

ヨーロッパと同様、中南米の英語能力向上には職場環境が教育機関以上に貢献しています。2015年以降、中南米の25歳以上の成人の英語能力は大幅に向上しており、中でも30代の向上が最も顕著となっています。また、20〜25歳の年齢層が安定したスコア推移を示している一方で、18〜20歳の年齢層は60ポイントの低下が見られます。こうしたことから、同地域は世界で最も年齢層によるスコア差が大きい地域となりました。

EF EPI スコア



EF EPI に参加するには？
efset.orgよりEF SETを無料受験ください

アフリカ

EF EPI ランキング

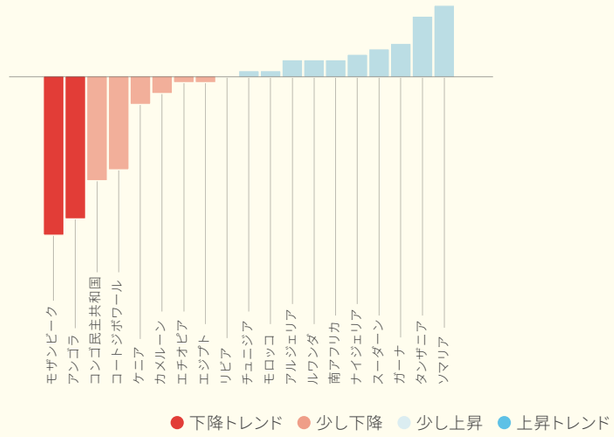
12	南アフリカ	609
20	ケニア	582
28	ナイジェリア	564
41	ガーナ	529
55	ウガンダ	512
56	チュニジア	511
63	タンザニア	496
68	エチオピア	490
76	モロッコ	478
78	アルジェリア	476
85	エジプト	454
86	モザンビーク	453
95	スーダーン	426
96	カメルーン	425
100	ソマリア	414
104	コートジボワール	403
105	アンゴラ	402
107	ルワンダ	392
108	リビア	390
110	コンゴ民主共和国	367

EF EPI スコア　● 非常に高い　● 高い　● 標準　● 低い　● 非常に低い

EF EPI トレンド

アフリカの英語能力は今年も横ばい状態となっており、英語能力のレベルに変化が見られた国はありませんでした。5年以上前から指数の対象となっている地域のうち、大きくスコアが伸びた国は、アルジェリア、ナイジェリア、チュニジアのみとなっています。また、長年にわたり着実に向上してきた北アフリカの英語能力が停滞期に入ったことが見て取れます。

昨年からのEF EPIスコア変化

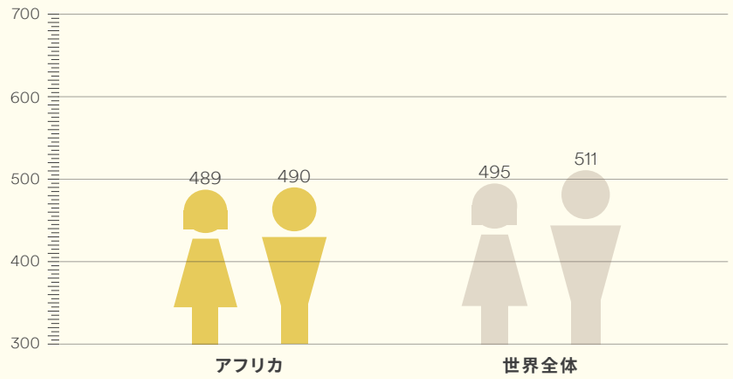


● 下降トレンド　● 少し下降　● 少し上昇　● 上昇トレンド

男女の差

アフリカでは、今年初めて男性の英語能力が女性に追いつきましたが、これは地域平均に限る話であり、国単位で見ると大半の国でいまだ大きな男女差（20点以上）があることが見受けられます。エチオピア、ナイジェリア、ルワンダ、ガーナでは女性のスコアが優勢であるのに対し、ウガンダとチュニジアは男性のスコアが高く、いずれも世界で最も男女差が大きい国となっています。

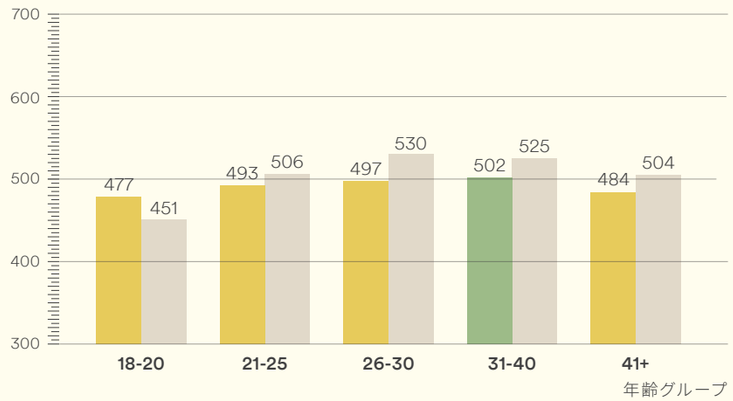
EF EPI スコア

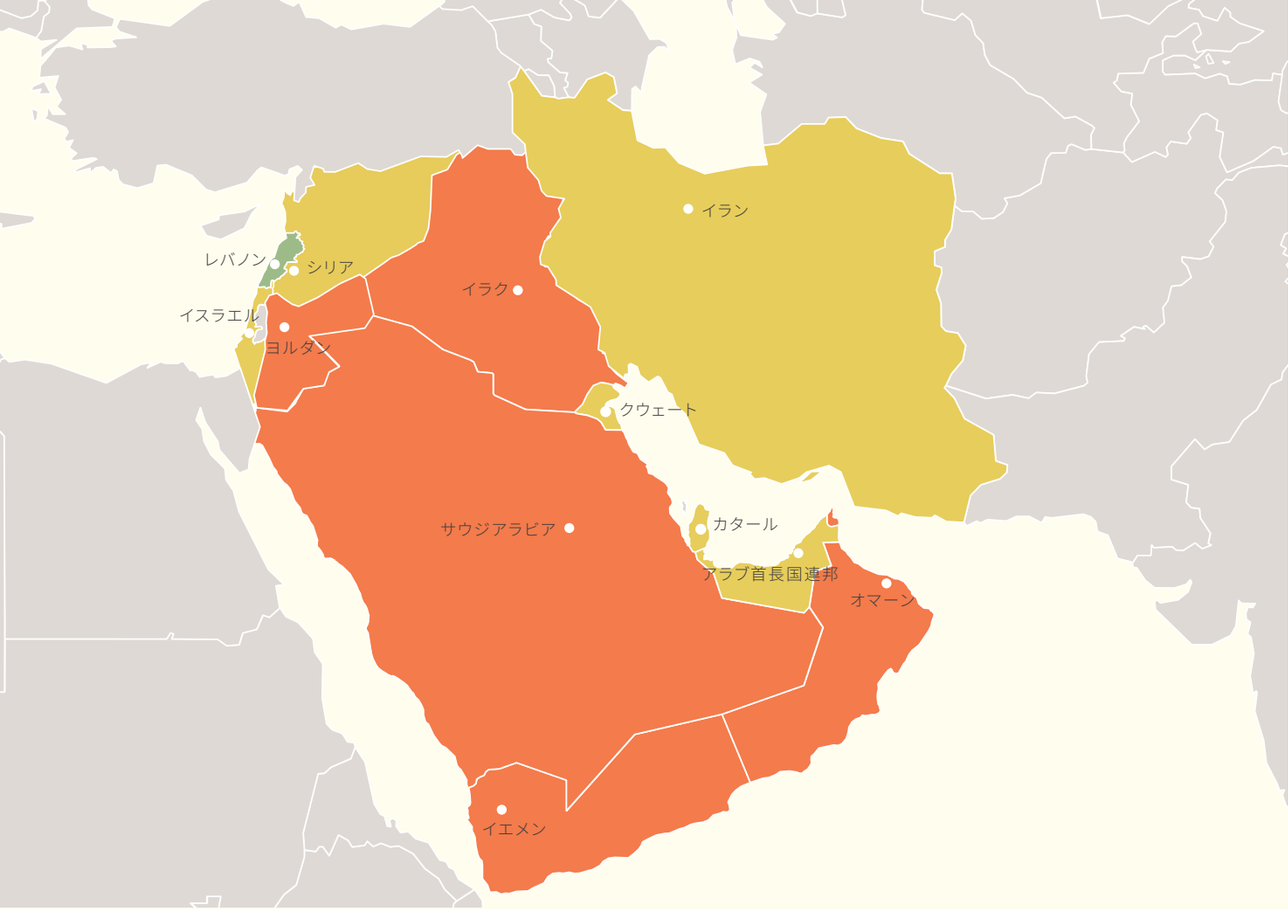


世代間の差

アフリカ全体では英語能力の年齢による差はそれほど大きくないものの、男女差と同様に、国別では大きなばらつきが見られました。エチオピア、ガーナ、リビア、スーダンでは年齢別のスコア差が70ポイントにも及ぶ一方で、モロッコ、アルジェリア、チュニジアでは僅差となっていました。

EF EPI スコア





中東

EF EPI ランキング

54	レバノン	513
69	イラン	489
73	カタール	484
74	イスラエル	483
78	アラブ首長国連邦	476
83	シリア	461
84	クウェート	459
90	ヨルダン	443
101	オマーン	412
102	サウジアラビア	406
103	イラク	404
109	イエメン	370

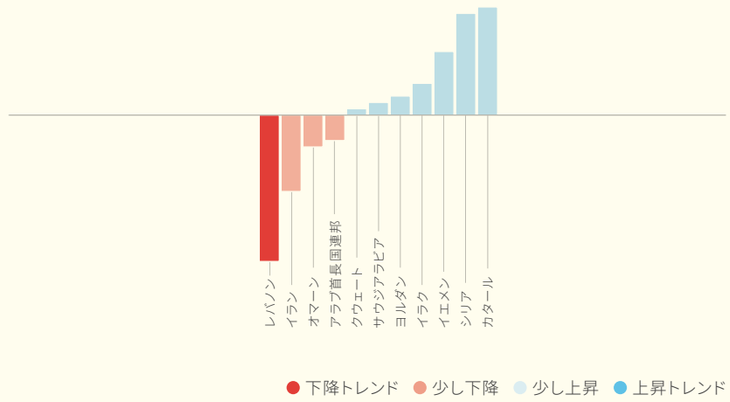
EF EPI スコア　● 非常に高い　● 高い　● 標準　● 低い　● 非常に低い

EF EPI に参加するには？
efset.orgよりEF SETを無料受験ください

EF EPI トレンド

中東の地域平均は昨年同様、どの国にも大きな伸展は見られませんでした。過去10年間、同地域の英語能力の向上率は、ヨーロッパや中南米の半分以下であり、20ポイント以上スコアが上昇したのはカタールとUAEのみとなっています。

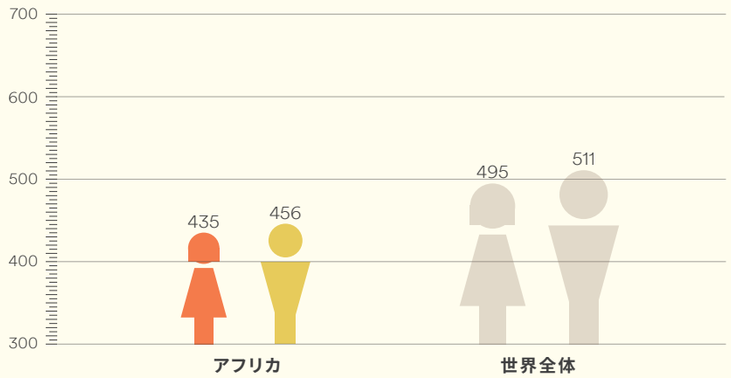
昨年からのEF EPIスコア変化



男女の差

中東の男女間の英語能力差は今年に入って縮小していますが、大半の国で依然として男性のスコアが女性を上回っています。
しかし、サウジアラビアでは、初めて女性が男性を上回るスコアを記録しました。一方、ヨルダンとイラクでは男性が大幅に優勢となり、世界で2番目に大きな男女差（37ポイント）を記録しています。

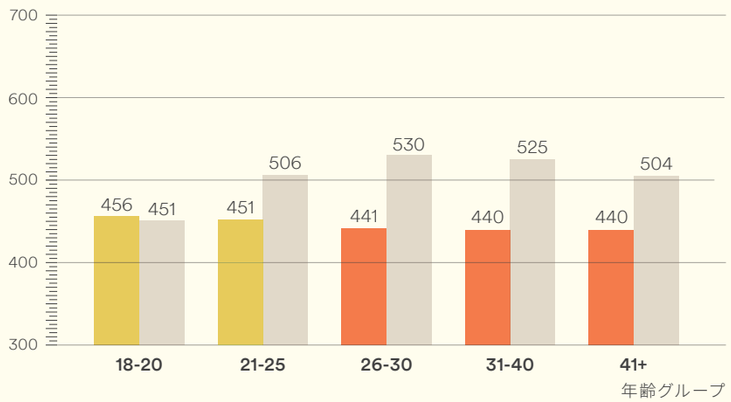
EF EPI スコア



世代間の差

中東では、地域レベルでも国レベルでも世代間の英語能力に大きな差はなく、この傾向が変わる兆しも見られません。12か国のうち、英語能力の高い年齢層と低い年齢層に60ポイント以上の差があるのはイランとイラクのみとなっており、いずれも最年少の成人層が、最も高い英語能力を保持しています。

EF EPI スコア



結論

英語は、世界で最も広く普及している情報交換のメディア・ツールであり、英語の普及以前には今のように人類の3分の1が特定の言語を共有し、地理的な制約にとらわれず知識を集約できる手法は存在しなかった。

英語を情報交換のメディア・ツールとして自由に使いこなせるようになれば、気候変動への対処をはじめ、資源の公平な分配や平和の実現など、国際社会におけるさまざまな課題の解決に向けてグローバルに行動を起こし、新しい可能性を切り拓いていくことが可能になります。しかし、人間は生物学的に大きな集団での共同体意識を持つことができないとも言われており、長期的な問題に取り組むことは私たちの誰もが得意とすることではありません。しかし、いわゆる「グローバルコミュニティ」としての結束がどうであれ、英語を学び、インターネットという強固なツールを組み合わせることで、個人が行動し、価値ある情報を得て、経験をより広く共有する機会を得られるようになります。そのような機会を増やしていくことが理想的なゴールとも言えますが、問題はそれをどのように実現するという点となります。

より良い英語教育の実現に向けて

学校での英語教育を改善することは、英語能力向上のための最も現実的な解決策であり、多くの国が英語教育に長けた教師を増やし、そのような教師が農村部や低所得者層向けの教育機関など、あらゆる現場で教育の場を提供できる環境を整える方策を模索しています。しかし、現在の教育改革では、教員養成が後回しにされがちです。また、新しい方法論やツールを現場で効果的に使うには、教師が強固なトレーニングを受けることが不可欠です。

我々は教師へのトレーニングに加え、教育システムにおける言語習得を暗記型からコミュニケーションを重視する「コミュニカティブアプローチ」へと移行することが重要です。また、子どもたちは母国語での読み書きも学ぶ必要があるため、家庭で他の言語を話す生徒に英語のみで指導を行っている学校は、多言語の教育モデルへの移行を検討してもよいかもしれません。

幼少期に読み書きを教わらない場合、大人になってからそのスキルを身につけることは困難となりがちです。
社会人になってから語学学校に通い、期待しすぎて不満足な結果に終わるというパターンもよく耳にします。しかし、どんな言語でも、使う場面が多ければ多いほど、生涯を通じて語彙力が身につき、上達していくものであり、英語も例外ではありません。

今日、ほとんどの国で学生よりも社会人の方が英語に堪能という傾向があります。言語を習得するには何千時間もの練習が必要であり、職場はその練習や実践に最適な場となります。教育過程である程度英語を学んできた社会人であれば、日常生活や仕事に関連した英語に触れることで、英語能力を取り戻し、さらに磨きをかけることができます。教育機関で英語を学ぶ機会の少なかった社会人がより早期に英語を習得するためには、英語はグローバルの職場で活躍するために不可欠なスキルであるという自覚を持ち、モチベーションを高めていくことがカギとなります（モチベーションは言語習得の重要な要素です）。

職場教育制度は組織の多言語環境の構築に理想的なソリューションであり、あらゆる職業で言語スキルを向上させ、個人ではカバーしきれない部分を補い、語学学習のハードルを下げることを可能にします。
また、こうしたトレーニングの多くがオンライン化されており、多忙な人財や雇用主にとっても魅力的なものとなっています。

リモート学習の可能性

2020年以降、オンライン学習が急速に普及し、その利点が広く知られるようになるとともに、その限界も理解されるようになりました。また、危機的状況下での教育だけでなく、優れたトレーニングをより大規模に場所を選ばず提供することで、教育へのアクセスにおける不平等を解消できるようになることも期待されています。学校で英語を学ばなかった、あるいは十分に学ぶことのできなかった社会人が、自分のスケジュールに合わせ、手頃な価格で自己学習できるオンライン学習を利用したり、講師との対面レッスンを受けたり、両者を併用したりするなど、より多様な学習の選択肢が得られるようになっています。

今日のデジタル学習環境は、5年前とは比べものにならないほど進化しています。最先端の技術により、学習者は実際のビジネス文書を使ったリアルに近いロールプレイや共同作業など、本番さながらの没入感を味わいながら学習を進めることが可能になりました。
また、AIによるパーソナライゼーションで、学習者のスキル定着において最適なタイミングで復習を促すだけでなく、膨大なデータにもとづいて学習者の集中力の変化を予測して、モチベーションを維持するためのコースを組んだり、学習者が脱落する前に教師やコーチを巻き込みレビューをしたりすることも可能となっています。

オンライン学位プログラムやリモートワークが増え続ける中、英語が話すことができれば、かつてのような場所的な制約に縛られることなく、新しい知識やスキルを学んだり、新しいビジネスに挑戦したりすることが可能となっています。すでにフルタイムのオフィスワークへと回帰した企業や、エッセンシャルワーカーはその限りではありませんが、このようなパンデミックの状況下で生まれた、いつ・どこで働くかというフレキシブルな就労形態が多くの人にメリットをもたらすことが期待されています。

試練の時代

ここ10年間は、グローバル化の進展と英語の普及に相反する動きも見られ、多くの国でポピュリズムや孤立主義、排外主義が助長されたことは否めません。
この2年間は、新型コロナウイルスのパンデミックに始まり、ヨーロッパでの戦争の勃発、中国のロックダウンなど、さまざまな不安要素がサプライチェーンの混乱を招き、あらゆる企業がサプライヤーの確保をはじめ、製造の垂直統合や在庫の維持に奮闘してきました。

このような状況が続けば、サプライヤーも消費者も自国に目を向け始めるようになり、グローバリゼーションのあり方に大きな影響がもたらされるようになるかもしれません。こうした流れが英語のニーズにどう影響するかは未知数ですが、地域言語（あるいはその地域で最も経済力のある言語）の人気が高まることが予想されます。

英語は、国民を支配しようとする独裁国家にとっては脅威と映るかもしれません。英語に堪能な人は、そうでない人に比べてより多くの情報を幅広いソースから入手できるだけでなく、自分の経験を英語で説明し、より多くの人と共有できるためです。さらに、自国の経済圏外でも就労機会を得たり、他国の人々と交流したりするといった自由も手に入れることができます。

このような観点からみると、インターネットへのアクセス制限と英語教育へのアクセス制限は、非常によく似た戦略であると言えます。独裁国家は、学校での英語教育時間の短縮にとどまらず、国家試験から英語を排除したり、英語学校の運営を妨害したり、英語に関するネガティブなプロパガンダを流したりするなど、英語教育へのアクセスを制限し、ニーズを減らすために様々な手段を講じ始める可能性があります。

個人の自由への影響に加え、英語能力と国際貿易、個人所得や生産性には高い相関性があることから、労働者の英語能力が低下することによって経済的な影響が生じる恐れもあります。

すべての人々に英語を

約25億人もの人々が英語を使うようになったのは、歴史や時代的背景、経済や技術にうまくマッチしているからだと言えます。英語という言語そのものに革新的で科学的な性質であるわけではありませんが、英語を話す人が増えれば増えるほど、英語がより便利になるという典型的なネットワーク効果によって、好循環を生み出すサイクルが確立されます。

しかし、言語を学ぶのは簡単なことではありません。もし英語の習得が簡単であれば、誰もが英語を話せるようになっているはずです。全体的な英語能力を底上げするためには、教育機関における英語教育の質と配分はもちろんのこと、社会人向けにさまざまな教育機会を提供し、英語習得における職場の重要な役割を認識することが肝心です。
そうした環境が実現すれば、グローバルな共通言語としての英語の本来の可能性を理解して活用し、人脈の構築や情報交換を促しながら、より広い世界で活躍できるようになります。

提言

多くの組織や個人が英語能力向上のメリットを認識しているが、
その目標を達成する最適なアプローチを熟知している人は多くはない。
以下、一般的な推奨事項をご紹介：

企業向け

- 各人財に対して、現在の英語能力と目標の英語能力との差を縮めるために必要となる時間を考慮した現実的な目標を設定する
- 各オフィスを含め、国際性と可動性を大切にした企業文化を構築する
- 海外のチームと頻繁に連絡を取りやすくなるプラットフォームを使用する
- 事務管理部門を含む全ての職務で、様々な国籍の社員を含む多様性のあるチームを構築する
- 社員全員をテストし、英語スキルの弱点を戦略的に特定する
- 人財の役割に合うようにチューニングされた英語カリキュラムで従業員を指導する
- テクノロジーを活用して柔軟性の高い学習を大規模に行う
- 役割ごとに英語能力の最低基準を設け、それらの基準が満たされているかテストする
- 時間をかけて英語力の向上をした人財に褒賞を与える
- 英語学習の体験談を共有することで経営陣や管理職クラスが従業員の手本となる
- 全社員に対して英語学習へのアクセスを優先する

公的機関および教育委員会向け

- カリキュラムで利用可能な時間数と教育の主要な節目ごとに達成できる能力レベルを提示する
- 教師と受講者の両方を対象に大規模な評価基準を設け、ベンチマークを設定した上で、長期的な進捗を追跡する
- 英語によるコミュニケーションスキルを評価できるよう入学試験と卒業試験を構築する
- 全ての新人教師のトレーニングプログラムに英語を含める
- 他の指導法で訓練を受けた英語教師に対し、実践的な指導法のトレーニングを再度行う
- 指導に十分な英会話力を持った教師のみが英語を指導できるような制度を設ける
- 英語を指導するための最低基準を設け、定期的に指導員のテストを行い、基準に満たない者をトレーニングする
- 子供たちに母語での読み書きを最初に教える
- 現在の職務のためだけでなく今後のキャリア構築も見据て、全ての公務員の英語スキルを評価し、必要に応じてトレーニングを提供する
- 職業安定所と失業対策プログラムで英語指導を提供する
- 社会人向けに英語教育を含む生涯学習プログラムを提供する
- 政府によって資金投入された成人向け語学コースが、受講者が目標を達成するのに十分な期間で集中的に提供されるようにする
- コースの品質を証明しスキルの通用性を高め、標準化されたマイクロクレデンシャルを構築する
- テレビ番組や映画の吹き替えを行わず、字幕を使って原語で放送されるようにする

教師および教育機関向け

- 英語の指導に、コミュニケーション重視のアプローチを採用する
- 間違いばかりに目を向けるのではなく、コミュニケーションがうまくいったことを重要視する
- トレーニング外でも英語メディアに触れ受講者が好きなことを共有するなどの機会を提供する
- 教師が自身の英語向上に取り組める明確な道筋を示す
- 大学の全ての専攻で英語を必須科目にする
- すべての教師に、英語能力向上のための簡単なプログラムやカリキュラムと、そのための時間を与える
- 生徒と教授の両方の英語レベルが条件を満たす場合は、教科を英語で指導するのを許可する
- 英語能力が伸び悩んでいる受講生のために、英語の補習プログラムを設ける

個人向け

- コツコツ続け、次の能力レベルに上がるためには何百時間もかかることを理解しておく
- 段階が上がるにつれ、能力が向上していることを認識し、自分の成長を褒める
- 数分でもよいので、毎日英語を学習する
- 一度に何時間も勉強するのではなく、20〜30分間勉強する
- 実現可能な目標を具体的に設定し、書き出しておく
- 仕事や研究分野に関連する語彙を暗記し、すぐに使ってみる
- 本を音読するだけでもよいので、会話の練習をする
- 休憩時間を使って楽しめる英語コンテンツを見つける
- 英語でテレビを見たり、本を読んだり、ラジオを聞いたりする
- 英語を話す国へ旅行をする際は、できるだけ会話をする
- 英語でSNSを利用したり、パソコンやアプリの設定を英語で行うことで、語学に触れる機会を拡大して実践する

付録 A

この指数について

分析方法
この「EF EPI」は、2021年にEF Standard English Test (EF SET)または当社の英語プレイスメントテストのいずれかを受験したグローバルで210万人以上の受験者のテストデータに基づいて作成されています。

EF 英語標準テスト (EF SET)
EF SET は、オンラインで受けられるリーディング力とリスニング力を測る適応型英語テストです。当テストは標準化され、客観的にスコア付けされており、受験者の語学能力を Common European Framework of Reference (CEFR) によって定義された 6 つのレベルに分類できるよう設計されています。EF SET はすべてのインターネットユーザーに無料でご利用いただけます。EF ESTの研究および開発についての詳細は、www.efset.org/about/ をご参照ください。

EF EPI 2021の各国スコアには、TOEFL iBT 2020の各国スコア(r=0.81)および IELTS Academic Test 2019の各国スコア (r=0.75) と強い相関関係があることが分かっており、このような相関関係から、これらの試験にはデザインや受験者のプロファイルに違いがありながらも、国の英語能力において同様の傾向があることが見て取れます。

受験者
EF EPI 英語能力指数の試験受験者サンプルは、回答者が言語学習の意欲がある人、および若年成人に偏る傾向がありますが、男女の人数に差はなく、幅広い年齢の成人言語学習者が含まれています。

女性受験者の割合はサンプル全体の41%、男性受験者の割合は33%、性別の情報を提供しなかった受験者の割合は25%となっています。

年齢情報を公開した受験者の年齢の中央値は26歳であり、受験者者の87%が35歳以下、97%は60歳以下でした。また、この項目の未回答者は25%となっています。

男性受験者の年齢の中央値は26歳、女性受験者の年齢の中央値は25歳でした。

この指数には、受験者数が400人以上の受験者の都市、地域、国のみのデータが使用されていますが、大半の国や地域が受験者数400人をはるかに超えています。

サンプリングの偏り
指標に含まれる受験者は任意で受験した人に限り、その国全体のレベルを代表するわけではありません。また、英語学習へのモチベーションが高い人、自分の英語力に興味がある人などがテストに参加している可能性が高く、ランダムな母集団のスコアと比較した場合、スコアにより偏りが生じる可能性があります。しかし、テスト結果は個人での使用を前提としているため、受験者が不正行為によってスコアを人為的に上げる可能性は低いと考えられます。

EF SETは無料でオンライン受験ができるため、インターネット接続がある人であれば誰でも参加することができます。さまざまなデバイスに対応できるよ柔軟性を備えており、受験者の35%がモバイル端末でテストを完了しています。インターネットの利用率が低い地域では、オンラインでの受験が難しく、それによってサンプリングバイアス（経済的に不利な層や教育水準の低い層が除外されること）が生じ、得点が高くなっている可能性があります。しかし、インターネットを使った自由参加型の試験方法は、広範囲にわたる指数に対し膨大なデータを収集するのに効果的であり、世界における英語能力レベルに関する貴重な情報を提供する手段であることは間違いありません。

スコアの計算法
EF EPI スコアの計算はEFSETと過去2年のEF EPI 指数を加重平均して算出したものです。前年度とのスコアの差を安定化させるために前年度の指数を含めていますが、前年度の受験者数は本年度の受験者数には含まれていません。地域平均は人口によって加重平均しています。

スコアしきい値に基づき、国、地域、および都市は能力別グループに分けられています。能力別グループに分けることで、どの国が同等の英語能力を持っているか認識でき、また近隣諸国との比較も可能になります。

CEFR	EF EPI スコア
C2	700-800
C1	600-699
B2	500-599
B1	400-499
A2	300-399
A1	200-299
Pre-A1	1-199

- 非常に高い英語能力は、CEFR レベルのC1に相当
- 高い、および標準の英語能力は、CEFR レベルのB2に相当し、EF EPI の各能力グループがそれぞれ一つのCEFR レベル半分に相当
- 低い英語能力は、CEFR レベルのB1のうち上半分に相当
- 非常に低い英語能力は、CEFR レベルのB1およびA2のうち下半分に相当

その他のデータソース
EF EPIは、国家試験の結果や言語世論調査データ、またはその他いかなるデータと競合することも、否定することも目的としていません。これらのデータセットは、むしろ互いを補完しあうものであり、年齢層、国、地域、受験者のプロファイルなどがより具体的であるものの、範囲が限定された調査やテストとは対照的に、EF EPIでは、世界中の社会人を対象に、共通の評価方法を用いて調査を行っています。
これほどの規模と範囲を持つデータセットは他には存在せず、政策立案者をはじめ学者やアナリストと、英語教育についての世界的な議論を展開する上でも、価値ある参考資料になると考えています。

本レポートは、EuromonitorやGallupなどの世論調査機関、あるいはOECDによる学習到達度調査（PISA）や 国際成人力調査（PIAAC） などの能力調査とは異なるプロセスで作成されています。これらの調査では、年齢、性別、教育水準、所得などの複数の要素を考慮して調査対象者を抽出し、複雑なサンプリング手法を用いて調査を実施しているため、全人口を代表していると考えられます。一方で、現時点ではこのような方式での英語能力に関する国際的な調査では行われていません。

英語能力に関するもう一つのデータソースとして、国の教育制度に関する集計データがあります。多くの大学では、高校生や大学受験生全員を対象に全国統一の英語能力テストを実施しており、（結果が公表されている場合とされていない場合がある）教育関係者や政府関係者はこうしたデータをもとに教育改革の効果を評価し、改善すべき点を洗い出しています。
しかし、こうした全国規模のテストは、他国と同条件で比較することができず、さらに、成人を対象としていないため、世界のある地域の高校生の英語能力に関する情報は得られるものの、国際比較や、成人の英語能力レベルを把握するうえでは有用ではありません。

EF Education First
イー・エフ・エデュケーション・ファースト(EF)は、1965年にスウェーデンで創設され、以来、世界100か国以上で語学、旅行、文化交流、学術プログラムを通してイマーシブな文化教育に取り組んでいます。詳しくはwww.ef.com をご覧ください。また、法人向けに英語研修はもちろん、リーダシップ研修や人事評価、コーチングソリューションも提供しております。詳しくはwww.hultef.com/jpをご覧ください。EF EPI 英語能力指数はSignum International AGによって発行されています。

付録B

EF EPI 能力レベル

EF EPI能力レベルについて
EFEPI能力レベルを見ることによって、同様のスキルレベルを持つ国々の特定や、地域内および地域間での比較が簡単にできるようになります。
各能力レベルに記載されているタスクは、各レベルにおいて個人が実行できるタスク例を示しています。各レベルにおける上位3ヶ国が一覧に記載されています。EFEPIは英語を母国語としない国と地域のみを調査の対象としています。

右の一覧では、各能力レベルにおいて個人がどのようなタスクを行うことができるかを示すタスク例を紹介しています。タスクは包括的に選択されたものではありませんが、レベル間においてどのように英語スキルが向上していくかを理解するための参考資料としてお役立てください。

EFEPIは国と地域の比較を行うことを目的としており、個々の受験者の得意分野や不得意分野については、分析の対象から外しております。
そのため各国の能力レベルは、その国内にいる「平均的な」受験者のレベルを単純に示唆するものではありませんのでご注意ください。

能力レベル	タスク例
非常に高い ドイツ オランダ シンガポール	✓ 社会生活の場面で正しい意味合いを持たせた適切な言語を使用できる ✓ 高度な文章を簡単に読むことができる ✓ 英語のネイティブスピーカーと契約交渉ができる
高い アルゼンチン ナイジェリア フィリピン	✓ 職場でプレゼンを行っている ✓ テレビ番組を理解できる ✓ 新聞を読む
標準的 ブラジル インド ロシア	✓ 専門分野における会議に参加している ✓ 歌の歌詞を理解することができる ✓ 熟知した内容についてプロフェッショナルなメールを書くことができる
低い 中華人民共和国 パキスタン トルコ	✓ 観光客として英語を話す国を旅することができる ✓ 同僚とちょっとした会話ができる ✓ 同僚からの簡単なメールを理解できる
非常に低い メキシコ サウジアラビア タイ	✓ 簡単な自己紹介（名前、年齢、出身国）ができる ✓ 簡単な合図を理解できる ✓ 海外からの訪問者に基本的な指示をすることができる

付録C

CEFR レベルとCan-Do 自己評価

熟練者	C2	• 聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。 • いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成できる。 • 自然に、流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。
	C1	• いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文を理解することができ、含意を把握できる。 • 言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。 • 社会的、学問的、職業上の目的に応じた柔軟でかつ効果的な言葉遣いができる。 • 複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の詳細な文を作ることができる。
自立した言語使用者	B2	• 自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑な文の主要な内容を理解できる。 • お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。 • かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細な文を作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
	B1	• 仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。 • 特定の言語を話されている地域を旅行しているときに起こりそうな大抵の事態に対処することができる。 • 身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のある文を作ることができる。 • 経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。
基礎段階の言語使用者	A2	• 具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。 • 自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。 • もし、相手がゆっくり、はっきりと話して助け船を出してくれる場合に簡単なやり取りをすることができる。
	A1	• ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。 • 簡単で日常的な範囲内で、身近で日常の事柄についての情報交換に応じることができる。 • 自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。

ヨーロッパ評議会の言葉
EF EPI 参加国のすべての国はレベルA2〜C1の範囲に分類されます。

付録D

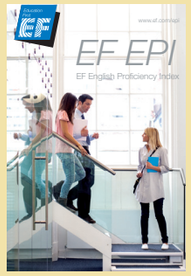
EF EPI 各国・地域スコア

各地域の英語力における変化の年次比較

	EF EPI 2021年版	EF EPI 2022年版	スコアの推移
オランダ	663	661	-2
シンガポール	635	642	7
オーストリア	641	628	-13
ノルウェー	632	627	-5
デンマーク	636	625	-11
ベルギー	629	620	-9
スウェーデン	623	618	-5
フィンランド	618	615	-3
ポルトガル	625	614	-11
ドイツ	616	613	-3
クロアチア	617	612	-5
南アフリカ	606	609	3
ポーランド	597	600	3
ギリシャ	591	598	7
スロバキア	590	597	7
ルクセンブルク	604	596	-7
ルーマニア	598	595	-3
ハンガリー	593	590	-3
リトアニア	579	589	10
ケニア	587	582	-5
ブルガリア	580	581	1
フィリピン	592	578	-14
チェコ共和国	563	575	12
マレーシア	562	574	12
ラトビア	569	571	2
エストニア	581	570	-11
セルビア	599	567	-32
ナイジェリア	560	564	4
スイス	575	563	-12
アルゼンチン	556	562	6
香港特別行政区	545	561	16
イタリア	535	548	13
スペイン	540	545	5
フランス	551	541	-10
ウクライナ	525	539	14
韓国	529	537	8
コスタリカ	520	536	16
キューバ	521	535	14
ベラルーシ	528	533	5
ロシア	511	530	19
ガーナ	523	529	6
モルドバ	532	528	-4
パラグアイ	520	526	6
ボリビア	524	525	1
チリ	516	524	8
ジョージア	512	524	12
アルバニア	527	523	-4
ホンジュラス	506	522	16
ウルグアイ	509	521	12
エルサルバドル	508	519	11
ペルー	505	517	12
インド	515	516	1
ドミニカ共和国	520	514	-6
レバノン	536	513	-23
ウガンダ	—	512	新規
チュニジア	510	511	1

	EF EPI 2021年版	EF EPI 2022年版	スコアの推移
アルメニア	499	506	7
ブラジル	497	505	8
グアテマラ	493	505	12
ベトナム	486	502	16
ニカラグア	470	499	29
中華人民共和国	513	498	-15
タンザニア	485	496	11
トルコ	478	495	17
ネパール	492	494	2
バングラデシュ	490	493	3
ベネズエラ	475	492	17
エチオピア	491	490	-1
イラン	501	489	-12
パキスタン	491	488	-3
スリランカ	464	487	23
モンゴル	461	485	24
カタール	467	484	17
イスラエル	—	483	新規
パナマ	475	482	7
モロッコ	477	478	1
コロンビア	465	477	12
アルジェリア	474	476	3
アラブ首長国連邦	480	476	-4
日本	468	475	7
インドネシア	466	469	3
エクアドル	440	466	26
シリア	445	461	16
クウェート	458	459	1
エジプト	455	454	-1
モザンビーク	482	453	-29
アフガニスタン	448	450	2
メキシコ	436	447	10
ウズベキスタン	447	446	-1
ヨルダン	440	443	3
キルギス共和国	418	442	24
アゼルバイジャン	451	440	-11
ミャンマー	429	437	8
カンボジア	423	434	11
スーダーン	421	426	5
カメルーン	428	425	-3
タイ	419	423	4
ハイチ	403	421	18
カザフスタン	426	420	-6
ソマリア	401	414	13
オマーン	417	412	-5
サウジアラビア	404	406	2
イラク	399	404	5
コートジボワール	420	403	-17
アンゴラ	428	402	-26
タジキスタン	405	397	-8
ルワンダ	389	392	3
リビア	390	390	0
イエメン	360	370	10
コンゴ民主共和国	386	367	-19
ラオス	—	364	新規

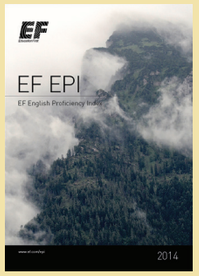
EF EPIの過去資料は www.ef.com/epi からダウンロードできます。



EF英語能力指数
2011年版

EF英語能力指数
2012年版

EF英語能力指数
2013年版



EF英語能力指数
2014年版

EF英語能力指数
2015年版

EF英語能力指数
2016年版

EF英語能力指数
2017年版

EF英語能力指数
2018年版

EF英語能力指数
2019年版

EF英語能力指数
2020年版

EF英語能力指数
2021年版

EF英語能力指数
2022年版

Copyright © 2022 EF Education First Ltd. All Rights Reserved